

# 春期の低温・晩霜に対する技術対策

2019年4月4日版

## 1. 水稲（低温害）

### 事前対策

(ア) 播種期の低温は、出芽に要する日数が長くなり、苗立枯病等の病害が発生しやすくなるため、塩水選や種子消毒、育苗床土の消毒等を徹底し、予防に努める。また催芽を充分行い、出芽をそろえるようにする。

### 事後対策

○育苗期

(ア) 各種被覆資材の利用など保温に努める。

## 2. 野菜（凍霜害）

### 事前対策

- (ア) 日照、風向き等を考慮して凍霜害を回避できる適期および適地をあらかじめ選定する。
- (イ) 早まき、早植えを極力避け、健苗の育成に努めるとともに定植後は必要に応じフィルム被覆や不織布のべたがけ資材の利用等により、被害の回避に努める。
- (ウ) ハウス、トンネル栽培の場合は被覆の隙間がないようにチェックする。
- (エ) 不織布のべたがけ等による葉温の確保、マルチフィルム等による地温の確保を行う。
- (オ) 耐寒性を低下させないように、軟弱徒長や密植を避ける。
- (カ) トンネル栽培や施設栽培においては、被覆フィルム、ドア、換気扇のシャッター等の隙間をできる限りなくすとともに、湿度の高い状態を避けるため昼間の換気にも留意する。

### 事後対策

(ア) 被害が出た場合、欠株の補植や、即効性肥料の施肥等適切な肥培管理により、草勢の回復を図るとともに、病害虫の適切な防除を実施する。

## 3. 花き（凍霜害）

### 事前対策

- (ア) 日照、風向き等を考慮して凍霜害の回避できる適期および適地をあらかじめ選定し、早まき、早植えを極力避け、健苗の育成に努める。
- (イ) ハウス、トンネル栽培の場合は被覆の隙間がないようにチェックする。
- (ウ) 不織布等による作物への浮きがけやべたがけによって予防する。
- (エ) ポリフィルム等によるマルチングによって地温を確保する。

### 事後対策

- (ア) 被害が大きく経営的に廃棄した方が有利な場合には生産を中止し、次の作付けを行う。
- (イ) 栽培を継続する場合は、保温や暖房に努め、生育の回復をはかる。
- (ウ) 被害が出た場合、被害茎の整枝、追肥等による草勢回復に努め、病害防除を行う。

#### 4. 果樹（凍霜害）

##### 事前対策

(ア)防霜扇による送風、スプリンクラー等による散水、寒冷紗被覆等により予防する。

##### 事後対策

(ア)着果量が不足する恐れがある場合には、必ず人工授粉を行う。また、着果量が少ないと徒長枝の発生が多くなるので、窒素分の追肥はひかえる。

(イ)新芽の大被害は、分岐点もしくは休眠芽まで切り戻す。

(ウ)幼果のときに被害を受けた場合は、果実の状態を確認し、被害の判定ができるようになってから摘果を実施する。

#### 5. 茶（凍霜害）

##### 事前対策

(ア)整枝方法の改善による萌芽時期の調整等による危険分散を行う。

(イ)防霜扇による送風、スプリンクラー等による散水、寒冷紗被覆等により予防する。

(ウ)防霜扇やスプリンクラー等の稼働点検を行う。特に耐用年数が経過した防霜ファンについては、サーモスタット等のセンサーが適正に働いているか、風力が設計どおりに確保されているか等、防霜効果が適正に発揮できるか必ず確認のこと。

(エ)間接被覆施設を導入する。

##### 事後対策

(ア)被害葉が混入しないように摘採するが、被害部の多いときはこれの除去を行う。

(イ)病害虫(特にハダニ、チャノホソガ)防除を行う。

(ウ)被害が甚大な場合は、追肥を行う。